



ヴァイオリン・レッスン・ルーム

# 巨匠の伝言



第74回

左手・指のストレッチ  
アンリ・ビュタン：バラードとポロネーズ ②

ヴァイオリニスト 木野 雅之  
日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスター

URL: <http://www.masakino.com/>

## 左手・指のストレッチ

毎日練習をすることはもちろん各自いろいろな意味合いからも大切であろうが、特に左手の指をよく伸ばし、常に正しく滑らかに動かし、美しい音を出すための練習は欠かせないものの一つである。中でも3と4の指は一番自由が効きにくく鍛練が重要である。

じっと手の甲を見てみよう。親指はともかくとして残りの4本の指のうち小指、つまり4の指は他の指に比べいちじるしく短い。ということは4の指で押さえるときには、かなりストレッチをしないとうまく押さえられないのである。その時に注意しなければならないのは、弦を押さえていない指の形、押さえた時の角度、弦への当たり方などであり、かなり音色に変化をきたすので研究が必要である。

まず初めに1から4の指はどのくらい開くだろうか？ 2と3の指を上げた状態で試してみよう。この時、小指は充分伸びて真っ直ぐになっているように。そして何度も繰り返し、いつでも続けて

同じ動きが出来るようしっかりと練習すること。そしてそれがまんべんなく出来るようになってきたら、1と2、2と3、3と4、というように、それぞれ隣り合わせの指同士で練習してみよう。

中でも難しいのは「2と3」の組み合わせである。しかし、集中的に練習して手・指を痛めることのないよう注意しよう。と言うのも、「2と3」は一番開きにくい組み合わせであり、また、この組み合わせだけでは使うことはあまりないからである。

また、これは極たまにはあるが、指を伸ばし演奏する時にもう一つ、1の指つまり軸になる指を出来る限り上に位置するようにし、より幅広く押さえられるようにすることもある。その時、左手首がかなり高いポジションになるが、常に同じようにスムーズに出せるようによく見ながら練習すること。自分で練習しながら見るのは至難の業なので、鏡に写しながらやると意外といろいろな癖もわかり面白い。

## ヴュータン Henri Vieuxtemps (1820~1881) ベルギー バラードとポロネーズ BALALADE UND POLONAISE op.38

ベルギー派のヴァイオリン名演奏家。6歳ときに既に公開演奏会を開き、1829年にパリ・デビューを果たす。30歳代に入るとヨーロッパ各地、アメリカを演奏旅行した。その後、ロシア、ドイツ、フランスにて活躍。71年よりブリュッセル音楽院にて教鞭を執り、フーバイの師としても有名である。自らの演奏用に多くの協奏曲、小品を書いた。

この「バラードとポロネーズ」は、あまり知られていないが、心あたたまる優しいメロディーと、快活な踊りが楽しい曲である。

### 【木野雅之 コンサート&マスタークラス】

- 2/3 マスタークラス 布池文化センター (名古屋市) 13:00~ お問い合わせ: 日本弦楽指導者協会 中部支部 058-273-2363
- 2/5 木野雅之 with スペシャル・フランス  
スイートベイジル STB139 (東京・六本木) 20:00~ お問い合わせ: 03-5474-1395  
出演: 木野雅之 (Vn.), 佐山雅弘 (pf.), 伊太地山伝兵衛 (Vo. Guit.) 他
- 2/25 無伴奏リサイタル TRCホール 13:00~, 16:00~ (2回公演) お問い合わせ: 0797-89-1721 (横井)
- 2/26 マスタークラス 文京シビックホール (東京) 時間未定 お問い合わせ: 日本弦楽指導者協会 関東支部 03-3576-5230

※木野雅之プロデュース ヴァイオリン・リサイタルシリーズ (杉並公会堂) が2月よりスタート。  
詳細は 03-5347-4450 (杉並公会堂), <http://www.suginamikoukaidou.com/>まで。